

19. シスチン尿症原因遺伝子の同定および機能解析

溝口研一 (千大)

腎尿細管上皮細胞膜に発現するシスチン輸送体 BAT1 を単離し機能解析をおこなった。クローニングは EST データベースより中性アミノ酸輸送体 LAT1 とのホモロジーサーチによりおこなった。培養細胞における r-BAT 遺伝子との共発現実験にてシスチン輸送活性を証明した。FISH 解析の結果タイプⅢシスチン尿症の遺伝子座との一致をみて病気の原因遺伝子である可能性が強く示唆された。

20. シスチン尿症の遺伝子解析

茂田安弘, N. Ahmed, 阿波祐輔
溝口研一, 赤倉功一郎, 伊藤晴夫
(千大)

非 I 型シスチン尿症の原因遺伝子とされる BAT1 のゲノムの構造決定及び direct sequence による患者解析を行った。45名のシスチン尿症の患者解析を行い、6 個の missense mutation, 1 個の delation, 1 個の nonsense mutation が同定された。

21. 膀胱尿管逆流防止術後合併症の検討

新海正啓, 長 雄一 (千葉県こども)

1989年4月～2000年3月、当科で逆流防止術を行った238例414尿管を対象に、術後 VUR の患側再発、健側発生その他の合併症につき検討した。

VUR 患側再発を12例 (5%) に認めた。経過は、自然消失10例、再手術1例、経過観察1例だった。VUR 健側発生は7例だった。その他の合併症はなかった。

一般に術後VUR再発率は数%だが、乳児期手術、高度 VUR, 続発性 VUR, 重複腎盂尿管例では再発率が高い。

22. 膀胱前壁に腫瘤を形成した水泡性膀胱炎の1例

藤村正亮 (千大)

症例は54歳女性。頻尿・排尿時痛を主訴に近医受診。膀胱炎と診断され抗生剤投与されるも改善せず当科受診。膀胱鏡にて膀胱前壁に非乳頭状・広基性腫瘤病変認め当科入院。入院時 CRP 軽度上昇, MRI にて膀胱前壁の肥厚認めた。膀胱腫瘍疑われ TUR 施行し病理所見より水泡性膀胱炎と診断。抗炎症剤内服し症状改善し再発はない。本症例は膀胱前壁に腫瘤認め、膀胱腫瘍と鑑別困難な良性疾患で若干の文献的考察を加えて報告した。

23. 妊娠中に根治手術を行なった尿膜管癌の1例

坂本信一, 池田良一, 中村 剛
金子朋功, 日景高志
(厚生年金)

31歳, 女性。妊娠を主訴に産婦人科受診時, エコー上, 膀胱頂部に3cm程の乳頭状突出物を認め, 泌尿器科受診。膀胱腫瘍と診断。妊娠13週2日, TUR-Bt 施行。病理診断は, adenocarcinoma, pT2, 尿膜管癌。2週間後, 臍, 尿膜管合併, 膀胱部分切除術施行。妊娠経過も順調にて妊娠40週5日, 3665gの男児を出産。妊娠に尿膜管癌を合併した報告例はなく, 本症例が世界第1例目と思われる。

24. 膀胱原発腺癌の1例

大隅信幸, 結城崇夫 (鹿島労災)

症例は69歳男性。肉眼的血尿と尿閉を主訴に7月14日, 当院受診。エコーにて膀胱後壁から左側壁に腫瘍を認めた。同日検査加療目的に同日入院となった。同年, 7月17日経尿道的膀胱腫瘍切除術施行し, 浸潤性の腺癌の診断であった。同年10月4日膀胱全摘術, 骨盤内リンパ節郭清術, 代用膀胱造設術を施行した。病理組織学的診断は腺癌, pT3b, G2, pN1であった。腺癌は一般に予後不良である。若干の文献的考察を加え報告する。

25. 血尿精査における尿中 NMP22 の検討

納谷幸男 (千大)

(目的) 顕微鏡的, 肉眼的血尿を来たし, 泌尿器科を受診する患者は多く, 全例に膀胱鏡を施行するのは侵襲的である。そこで新しく尿路上皮腫瘍マーカーである NMP22 の有用性につき検討した。

(対象) 119例 (男女比3:1, 平均年齢62.8歳) を対象とし, 尿細胞診, NMP22, 膀胱鏡, 腹部超音波検査, 排泄性腎盂造影を行い, 細胞診と NMP22 の成績につき比較した。

(結果) 119例中18例に癌を認め, 7例に結石, 6例に尿路感染症を認めた, NMP22は, 感染例, 結石例でも高くでる傾向があったが, sensitivity 72.2%, specificity 88.1%であり, 細胞診と併用することで PPV は85.7%となった。

(結語) NMP22は血尿の診断の補助的な一助となりうる。